

帰国後技能実習生のフォローアップ・アフターケア等に関する取組事例 ①

令和2年度
調査結果

外国人技能実習機構

京都府 R 監理団体

【監理団体概要】

実習生の国籍・人数：インドネシア371名
実習生の職種：耕種農業、建築板金、型枠施工、とび、建設機械施工、
パン製造、そう菜製造業、塗装等

【ポイント】 ✓技能実習で修得した知識や技術を母国に持ち帰り、
現地の農業発展に貢献

元実習生が母国で農業協同組織を設立

監理団体では2014年からインドネシア人実習生を受入れ、野菜の耕種農業実習を行っている。実習修了後、帰国した元実習生たちは日本の農業協同組合のような組織をつくり、畑を購入して自分たちで野菜栽培を始めた。この組織からは毎年100名以上のインドネシア人実習生が来日している。実習生たちは給与の一部をこの協同組織に送金し、貯まった資金で少しずつ畑を拡充しており、現在は2ヘクタール以上の畑を所有している。栽培している作物は白菜、小松菜、スイカ、ナス、キャベツなど多岐にわたる。

マルチシートの技術を母国で活用

2019年来日した実習生たちは、実習で学んだマルチシート（農業用ビニールシートで畑の畝に苗を植えた後、畝の上に被せるシート）の技術を母国に持ち帰った（写真①）。このマルチシートを被せることで、内部の温度が上昇し湿気がたまるため、土の乾燥を防ぎ、水やりの作業を省くことができる。また、雑草対策にもなるので作物の成長を促進させる。このマルチシートのようなものはインドネシアでは販売されていないため、実習生たちは監理団体が提供したサンプルを持ち帰り、現地の工場で製造してもらった。他にも実習で修得した日本の農作業技術を母国での野菜栽培に活用して、生産性を大きく向上させている（写真②③）。

写真①



マルチシートを活用

写真②



直射日光を避けるためネットを設置

写真③



畝を真っ直ぐに作るため、紐を使用

大阪府 I 監理団体

【監理団体概要】

実習生の国籍・人数：ベトナム91名、中国73名、インドネシア119名、フィリピン2名、
ミャンマー201名、キルギス24名

実習生の職種：とび、建設機械施工、婦人子供服製造、機械加工、工業包装、介護等

- 【ポイント】 ✓実習実施者が母国に新設した会社に就職して、技能実習で修得したことを活かし活躍
- ✓送出機関と連携して、元実習生の帰国後の就職状況を把握

写真①



写真②



技能実習先がベトナムに新設した会社に採用され、工場長に昇進

実習実施者がベトナムに新設した会社(工場)

傘下実習実施者のS社で溶接の技能実習を行ったベトナム人元実習生は、帰国後、S社が2018年に設立した建設機械製造会社に就職した(写真①②③)。元実習生は就職したその会社において、仕事の技能や日本語能力が評価され、2019年に工場長に昇進した。工場長に就任後は、社員への溶接技術教育、社員の指導・管理、生産管理及び日本の会社との連絡業務等を担い、同社の発展と溶接の技術移転のために尽くしている。そして、管理者としてのマネジメントスキルを身につけるため、「企業内転勤」の在留資格で来日し、管理職のノウハウを学ぶほか、溶接技術を更に向上させるための努力を続けている。

写真③



ベトナム人元実習生

元実習生とSNSを通じて連絡体制を維持

監理団体では実習生の帰国後半年以内に元実習生の帰国後の就職状況について、送出機関に依頼し聴取してもらっている。それと同時に元実習生と監理団体の通訳人を通じてSNSで連絡を取り合い、帰国後の状況を確認している。また、現地で実習希望者と面接をする機会があれば、元実習生に連絡を取り、現在の状況を確認したり、技能実習の説明会に同席してもらい、日本での生活や技能実習についての話をしてもらっている。

岐阜県 N実習実施者

【実習実施者概要】

実習生の国籍・人数：コロナウイルス感染症の影響により受入休止中

実習生の職種：機械加工

【ポイント】 ✓母国で修得することが困難な技術等を復職後、仕事に活用し会社の生産性向上に寄与

復職後、ロボット導入及び特殊ねじ加工の立ち上げに貢献

機械要素部品メーカーのN社ではグローバル人材の育成及び技術移転のために中国の子会社から実習生を受け入れている。2019年末、中国工場で協同作業用ロボットを導入した際には、復職した元実習生が日本で修得した技術を活かし、材料を置くパレットやロボットハンド部の爪の設計に関わり、スムーズな立ち上げを実現することができた（写真①）。自動化ロボット導入の際も技能実習で学んだプログラミング技術を応用して、プログラムの細かな調整や加工指示などを通し、迅速な立ち上げに貢献した（写真②）。

また、中国工場でも生産を始めることになった特殊ねじに関しても、刃具の選択、主軸回転数、送り量、切削量という重要な加工要素についての知識や技能を十分に活かし、クライアントの要求に応えた加工を行って成功を収めている（写真③）。

実習で学んだ5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）を中国の工場で推進

元実習生は、日本で学んだ5Sの改善について多くの実践を行った。職場全体、操作ガイド、倉庫棚、治工具の配置など多岐にわたる。職場環境を改善するだけでなく、社員に改善意識をもってもらうこともできたので、まずは第一歩が踏み出せたと実感している。5S活動には終わりはなく、この改善の意識を堅持しながら、社員の習慣にしていきたいと考えている。

写真①



協同作業用ロボット

写真②



自動化ロボット

写真③



特殊ねじ加工